

# Citation 6

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-88411

(43)公開日 平成5年(1993)12月3日

(51)Int.Cl.  
A 45 D 34/04  
34/00  
B 65 D 25/20

識別記号 J  
府内整理番号  
E 6540-3E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全2頁)

(21)出願番号

実開平4-37327

(22)出願日

平成4年(1992)5月6日

(71)出願人 000006909

株式会社吉野工業所

東京都江東区大島3丁目2番6号

(72)考案者 水島 博

東京都江東区大島3の2の6 株式会社吉野工業所内

(72)考案者 岸 隆生

東京都江東区大島3の2の6 株式会社吉野工業所内

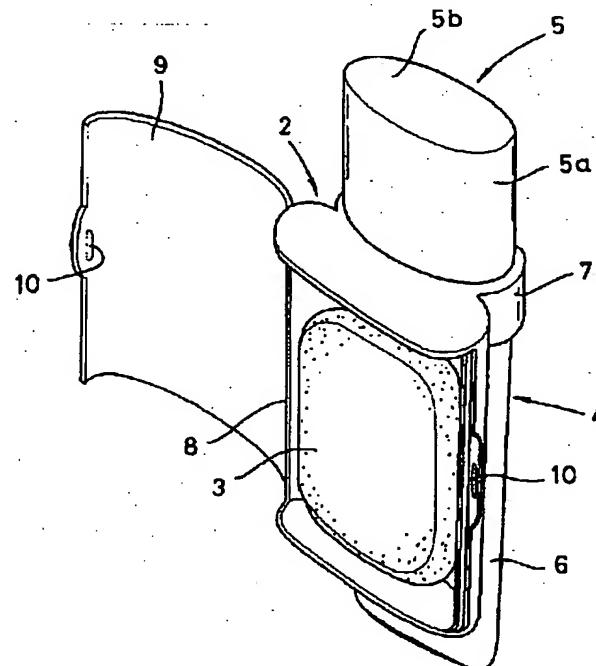
(74)代理人 弁理士 今岡 良夫

(54)【考案の名称】 パフ付きチューブ容器

(57)【要約】

【目的】 チューブ容器体とパフとをコンパクトな形態で収納出来、取扱いも簡単なパフ付きチューブ容器を提案する。

【構成】 前面に開閉可能な扉9を有するとともに、内部にパフ3を収納したパフ収納部6上端裏面より下端面開口の筒状嵌合部7を一体に突設してなるパフ収納部材2を設け、この部材2の嵌合部頂壁に穿設した窓孔に下方よりチューブ容器体4の口頸部4bを抜け出し不能に嵌合させて装着させた。



## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 上下端面を閉塞した左右に扁平な筒状をなすとともに、筒壁前面の開口部を開閉自在に閉塞した扉9を有するパフ収納部6内にパフ3を収納し、且つ該収納部6後面上端より下端面を開口した左右に扁平な短筒状の嵌合部7を一体に突設してなるパフ収納部材2を設け、該部材2の嵌合部頂壁中央に穿設した窓孔内に、下方より口頸部4bを抜け出し不能に突出嵌合させるとともに、該口頸部4b下端縁より延設した胴部4a上端を上記嵌合部7に嵌合させたチューブ容器体4を設けてなることを特徴とするパフ付きチューブ容器。

## 【図面の簡単な説明】

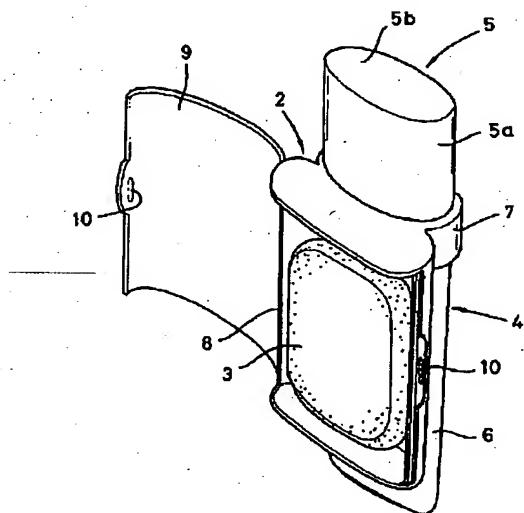
【図1】 本考案容器の一実施例を示す斜視図である。

【図2】 同実施例の縦断面図である。

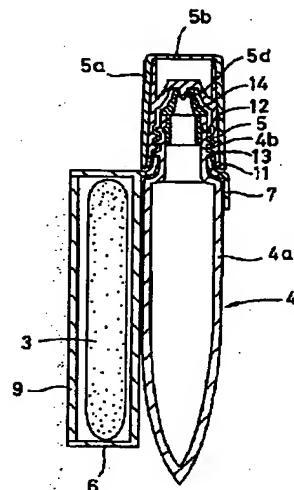
## 【符号の説明】

- 2 パフ収納部材
- 3 パフ
- 4 チューブ容器体
- 4a 容器体胴部
- 4b 容器体口頸部
- 6 パフ収納部
- 7 嵌合部

【図1】



【図2】



**【考案の詳細な説明】****【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案はパフ付きチューブ容器に関する。

**【0002】****【従来の技術】 【考案が解決しようとする課題】**

チューブ容器は比較的粘度の高い液を収納出来るとともに、内容物の酸化を極力防止出来るため便利であり、また、最近では、一つの化粧品の形態の多様化、例えば、固形、液状、ペースト状といった種々の形態が開発されるに伴い、従来チューブ容器以外の容器に収納されていた、パフに塗布して使用する化粧品をチューブ容器に収納する場合も増加してきている。

**【0003】**

この様なチューブ容器とパフは別々に携帯して使用しており、従って、一方を忘れたり、使用時に一方が見当たらない等の不便を生じる場合がある。

**【0004】**

本考案はこの様な点を考慮してなされたもので、極めて簡単な構造でしかも使用者が良く、パフと容器体をコンパクトに収納出来るパフ付きチューブ容器を提案するものである。

**【0005】****【課題を解決するための手段】**

本考案容器は上記課題を解決するため、上下端面を閉塞した左右に扁平な筒状をなすとともに、筒壁前面の開口部を開閉自在に閉塞した扉9を有するパフ収納部6内にパフ3を収納し、且つ該収納部6後面上端より下端面を開口した左右に扁平な短筒状の嵌合部7を一体に突設してなるパフ収納部材2を設け、該部材2の嵌合部頂壁中央に穿設した窓孔内に、下方より口頸部4bを抜け出し不能に突出嵌合させるとともに、該口頸部4b下端縁より延設した胴部4a上端を上記嵌合部7に嵌合させたチューブ容器体4を設けて構成した。

**【0006】****【作用】**

図2の状態から板状扉9を開いてパフ3を取り出し、キャップ5を外したチューブ容器体胴部4aを押圧すれば、ノズル部材14先端開口より内容物をパフ3に吐出させることが出来る。使用後は、パフ3をパフ収納部6に収納しておけばパフの携帯忘れ等の虞はない。

#### 【0007】

##### 【実施例】

以下、本考案の実施例を図面を参照して説明する。

#### 【0008】

図1及び図2は本考案の一実施例を示し、図中1はパフ付き容器を示す。該容器1は、パフ収納部材2と、パフ3と、チューブ容器体4と、キャップ5とから構成している。

#### 【0009】

パフ収納部材2は、合成樹脂により形成したもので、上下端面を閉塞した横長楕円筒状のパフ収納部6裏面上端より後方へ、下端面開口の横長楕円短筒状をなすチューブ容器体嵌合部7を突設して構成している。また、上記パフ収納部6の筒壁の左側面中央部より前面を通り右側面中央に至る窓孔を開口し、この窓孔の左側縁部に薄肉ヒンジ部8を介して側縁部を回動自在に連結した横断面横長楕円形状の板状扉9を設け、その右側縁中央部を窓孔の右側縁中央位置の筒壁に凹凸係合手段10を介して係脱可能に構成している。更に、嵌合部7の頂壁中央部に円形の窓孔を穿設し、該窓孔周縁部より上方へ行くに従って内方へ傾斜する係止り部11を周方向複数突設している。

#### 【0010】

パフ3は、スポンジ等により形成された扁平四角柱状をなし、上記収納部6に収納させている。

#### 【0011】

チューブ容器体4は、合成樹脂により形成されたもので、横長楕円筒状をなし、下端部を扁平に閉塞させた可撓性を有する胴部4a上端中央より円筒状の口頸部4bを起立させて構成しており、口頸部4b外周上部に螺条12を、また下部に係合突条13を各々周設させている。また、口頸部4b上端には、円筒状の基部上端縁より

円錐状部を延設するとともに、該円錐状部上端を開口したノズル部材14を嵌着固定させている。

#### 【0012】

そして、この様に構成したチューブ容器体4を上記嵌合部7下端開口より挿入して、その口頸部4bを各係止リブ11を押し拡げて窓孔より突出させ、この際各係止リブ12により口頸部4b外周の係合突条13下面を係止して抜け出し不能に嵌合させている。

#### 【0013】

キャップ5は、合成樹脂により形成したもので、梢円筒状の周壁5a上端縁より頂壁5bを延設し、内部中央に円筒状の螺筒部5cを設けて構成しており、螺筒部5c上面より上記ノズル部材14上端開口を閉塞する注出栓5dを垂設している。

#### 【0014】

##### 【考案の効果】

以上説明した如く本考案容器は、既述構成したことにより、チューブ容器体とパフとを極めてコンパクトな形態で収納することができ、携帯に便利であるとともに、パフの使用時の紛失或いは携帯忘れ等を引き起こす虞はない。

#### 【0015】

また、構造も簡単で組立も容易に行える。

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**